

2020/11/28 土

15:00開演 [14:30開場]

宮城野区文化センター PaToNaシアター

SAT. 28TH NOV. 2020 15:00 @ MIYAGINO-KU CULTURAL CENTER PATONA THEATER

溢れんばかりの情熱で  
新作初演を手がけ、  
打楽器の多彩な魅力を届ける  
気鋭のパーカッショニスト!

percussion Mizuki Aita

©Shohei YABUTA

會田瑞樹 パーカッション  
Mizuki Aita, Percussion

ウェリ・ヘンドラッコ | グンデル\* 金子展寛 | 箏\*\*  
Welly Hendratmoko, Gender Nobuhiro Kaneko, Koto

石井真木 M. Ishii	サーティーン・ドラムス(1985) [購買打楽器] Thirteen Drums (1985)
會田瑞樹 M. Aita	グンデルとヴィブラフォンのための《Welly》(2018/2020、改訂版初演)* [グンデル、ヴィブラフォン] Welly, for gender and vibraphone (2018/2020, premiere of the revised version)
ヘンドラッコ W. Hendratmoko	インバル・ワカナ(2018)* [ガンパン] Imbal Wacana (2018)
藪田翔一 S. Yabuta	闇の色(2020、會田瑞樹委嘱作品、世界初演)* / ** [箏、グンデル、打楽器] Yami no Iro (2020, commissioned by M. Aita, world premiere)
佐原詩音 S. Siharai	ペトルンカムイ(2018) [ヴィブラフォン、金属打楽器] Petorunkamuy (2018)
内藤明美 A. Naito	独奏打楽器奏者のための《砂の女》(2012) [ヴィブラフォン、金属打楽器、購買打楽器] The Woman in the Dunes, for solo percussionist, inspired by Kobo Abe's novel, The Woman in the Dunes (2012)
細川俊夫 T. Hosokawa	ヴィブラフォンのための《夕顔》(2020、會田瑞樹委嘱作品、世界初演) [ヴィブラフォン] "Yu-gao" for vibraphone solo (2020, commissioned by M. Aita, world premiere)
J. S. バッハ/白藤淳一編 J. S. Bach / arr. by J. Shirafuji	プレリユードとフーガ BWV543 ** [箏、ヴィブラフォン] Prelude and Fugue, BWV543
権代敦彦 A. Gondai	光のヴァイブレーション(2016) [ヴィブラフォン] Vibration of Light (2016)

チケット料金: ¥2,000 (全席自由・税込)  
9月4日(金) 一般発売

- 宮城野区文化センター: 022-257-1213
- 仙台市市民文化事業団(日立システムズホール仙台): 022-727-1875
- 仙台銀行ホール イズミティ21: 022-375-3101
- チケットぴあ: 0570-02-9999(コード186-844)

藤崎、ヤマハミュージック仙台店、銀座山野楽器仙台店2F、カワイミュージックショップ仙台にて取扱。

- 曲目、出演者等は、変更になる場合がございますのでご了承ください。
- 就学前のお子様の同伴ご入場はご遠慮ください。
- ネットオークション等での営利目的の転売はお断りします。

お問い合わせ先

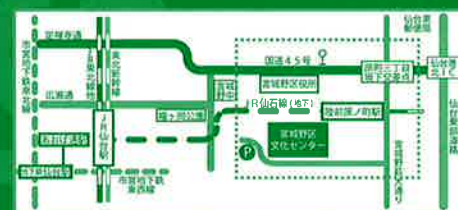
HAL PLANNING  
022-262-1682

東京オペラシティ文化財団  
03-5353-0770

バッハから  
コンテンポラリーへ

Mizuki  
Aita  
Percussion

"B to C" - from Bach to Contemporary music - is the monthly recital series presented by Tokyo Opera City Cultural Foundation. 10 musical instruments should be picked up in a year, except July and August, and a unique or unusual instrument can be included. One piece of Bach and one piece of contemporary composer should be included in the programme, and other pieces are left to each player's choice.



宮城野区文化センター PaToNaシアター

仙台市宮城野区五輪2-12-70

TEL: 022-257-1213

https://www.hm-sendai.jp/sisetu/miyagino/

アクセス

- JR: JR仙石線「陸前原ノ町駅」下車徒歩1分
- バス: 仙台市営バス、仙台駅前18-50-51番のりばから、宮城野区役所前下車すぐ  
宮城交通バス、仙台駅前50番のりばから、宮城野区役所前下車すぐ

「B → C (ビートウーシー | バッハからコンテンポラリーへ)」とは、実力ある若手日本人演奏家が、「B」=バッハ作品と「C」=現代曲を軸に、独自のプログラムを組むリサイタルシリーズ。  
1998年のスタートから既に220回を超え、東京オペラシティの名物企画として、常に音楽ファンの注目を集めています。若きアーティスト達の才気溢れる個性と音楽性を大胆に浮き彫りにする人気シリーズを仙台で初開催。更なる出会いの場を広げています。

ソロパーカッショニスト・會田瑞樹は、コンテンポラリー音楽の発展に功績を残してきたパイオニア達に打楽器を学び、自身も新しい音楽を紹介する存在でありたいとアクティブに活動している気鋭。演奏をとおして「ゲンダイオンガクという響きの硬さを取り払い、知らない世界に飛び込むきっかけを伝えたい」と語る彼は、持ち前の情熱でさまざまな限界や制約を飛び越え、未来へ突き進んでいます。

「東洋と西洋が遭遇し、多様性をもつ世界を。さらに文化の交差点を表現したい」というB → C。中学生だった會田に強いインパクトを与えた石井作品から始まり、會田の自作、インドネシア音階と《うさぎとこめ》の旋律が可愛らしく融合する《インバル・ワカナ》へ。さらに箏、ガムラン楽器、打楽器がどう交差するのか興味深い藪田翔一の新作、アイヌ語で「川の神様」を意味する《ペトルンカムイ》と続きます。後半は安部公房の世界的ベストセラー小説「女の目線」から音楽で描いた内藤作品や、細川俊夫が書き下ろすヴィブラフォン独奏曲、ルーツの異なる二つの楽器で表現するバッハを。そして鴨居玲の絵画「教会」(1976)にインスパイアされた権代敦彦の《光のヴァイブレーション》は、ヴィブラフォンの音色が千変万化し、壮大な祈りを感じることでしょう。音だけでなく、その所作までもが音楽となる打楽器の多彩な魅力が広がります。

今を生きる演奏家と作曲家が紡ぐ、みずみずしい音の誕生の瞬間、ぜひお立会いください!

PROFILE

會田瑞樹 パーカッション  
Mizuki Aita, Percussion




1988年宮城県仙台市出身。宮城県仙台第二高等学校を経て武蔵野音楽大学、および同大学院修士課程修了。佐々木祥、星律子、吉原すみれ、神谷百子、有賀誠門、藤本隆文の各氏に師事。日本現代音楽協会主催第9回現代音楽演奏コンクール「競楽区」において第2位入賞。2016年NHK-BSプレミアム「クラシック倶楽部」出演。これまでに3枚のアルバム「with...」(朝日新聞推薦盤)「ヴィブラフォンのあるところ」(レコード芸術特選盤)「五線紙上の恋人」(レコード芸術特選盤)を発表し、いずれも高い評価を得た。

打楽器のための新しいレパートリーの発展を活動の中心に据え、これまでに200作品以上の新作を初演。東京交響楽団、中国国家交響楽団、リトアニア・聖クリストファー室内合奏団との新作協奏曲初演をはじめ、国際交流基金アジアセンター主催事業「Notes」では自作曲初演を含むインドネシア公演を開催するなど海外での活動も積極的に行っている。2019年は自らの声を使った表現にも積極的に取り組んだほか、第10回JFC作曲賞へのノミネートを果たすなど、作曲活動へも力を注ぎ、垣根を超えた活動を展開している。

http://mizukiaita.tabigeinin.com

認知症は他人事ではない。  
もちろんこの僕にとっても。



そのことを恐れるのではなく、正しく備えるために。

ニッセイ **みくらいのかたち** 新登場

**認知症サポート** プラス

認知症保障保険

ご検討にあたっては、「契約概要」「注意喚起情報」で契約のしおり「約款」を必ずご確認ください。